

2018年 夏号

第 102 号

僧伽編集委員会

〒921-8031
金沢市野町 2 丁目32-4
徳法寺内
TEL (076) 241-5219
題字 本多 千翠

おおよそ大信海を案ずれば、
貴賤・緇素を簡ばず、男女・老
少を謂わず、造罪の多少を問
わず、修行の久近を論ぜず。

『教行信証』信卷

『教行信証』
親鸞聖人の主著。教卷・
行卷・信卷・証卷・真仏
土卷・化身土卷(本・末)
からなる。

僧伽



左の写真はマンゴーの木です。お
釈迦様には多くの个性的なお弟子
がおられました。その中でも異
色なのが、遊女であったアンパー
リーです。
幼くしてマンゴー林に捨てられ
ていたアンパーリーは、その林の
番人によって育てられました。アン

釈迦と遊女

徳法寺 杉谷 浄

パーリーとは「マンゴー林の番人
の子」という意味です。成長して遊
女となったアンパーリーは、生ま
れながらの美貌に加えて、踊りや
歌、音楽にもその才を現します。十
五歳の時には七人の王が結婚を申
し込みますが、自由な生活を求め
た彼女はそれらをすべて断ります。
彼女の姿を一目見るために各国か
ら人々が押し寄せ、多くの資産家
が莫大な財産を彼女に捧げたとい
われます。そのあまりの美しさに、
お釈迦さまは弟子たちの心が奪わ
れないように、特別に説法を説いた
とさえ伝えられています。
二人の娘と共に五百人もの遊女
の集団を束ねていたアンパーリー
でしたが、老いには勝てず、年齢と
共にその美貌も衰えていきました。
そして、お釈迦さまに教えを乞う
たのです。遊女と聞くと、お釈迦さ
まとは逆の存在にも思われるかも

しませんが、お釈迦さまにとって、
救いを求めて来られる方の身分な
ど問題にはならなかったのです。
お釈迦さまに帰依した彼女は、
所有していたマンゴー林を寄進し
ます。当時のお釈迦さまや弟子た
ちは、屋根のある家には住まず、林
を住処としていたからです。マン
ゴーは最も価値のある果物とされ
ていましたから、マンゴー林はどの
ような林よりも貴重なものでした。
この林は菴摩羅樹園(あんなまら
じゅおん)と言い、お釈迦様が亡
くなられた後も、長く仏教教団に
とって大切なものとされてきま
した。
アンパーリーは、インド史上最
も美しい女性の一人と言われ、イ
ンドを旅行すると、彼女の絵や人
形をよく目にします。時代が変
わつても、人間の悩みは変わらない
ことを教えてくれているようです。

御手洗 隆明



真宗の記憶をたずねて

私は歴史が好きなので、時々親鸞聖人の御旧跡を訪ねています。京都には誕生と入滅の、関東には聖人ゆかりの寺院があります。関東の旧跡寺院の多くは、聖人の布教によって始まったとされていますが、江戸時代に復興したことを伝えるお寺も少なくありません。

江戸時代は民衆の移動が難しかったとされていますが、実は二五〇年程前、飢饉などの災害をきっかけに大きな人口移動がありました。その一つが、幕府の政策として人口の多い北陸の天領か

(茨城県)には、稲田西念寺など東本願寺に連なるお寺があったのです。

現在は笠間市の稲田西念寺や唯信寺などJR水戸線沿線の旧跡寺院の多くは、江戸時代に北陸真宗門徒を受け入れることで地域や寺院が災害から復興したことを伝えています。江戸時代の後半になると、北陸真宗門徒は聖人の旧跡巡拝を理由として旅の許可を取り、故郷を離れてこの地方を目指したようです。

ある加賀前田藩領の門徒は、一八一六年六月に越中を出発し、旧跡を巡拝しながら三ヶ月後には唯信寺に到着し、やがて水戸に至りました。そこから先の足取りはわかりませんが、この門徒の子孫が現在も福島県相馬市にいて、最後は東北まで到達していたことがわかりました。真宗の信仰を守り、家族と暮らせる場所があるのならば、真宗門徒は危険もいとわなかったのです。

七年前、東日本大震災によ

る大地震・津波・原発事故という多重災禍に遭った福島県浜通りの相双地方は、北陸からの移民門徒（真宗移民）の子孫が多い地域です。かつては地元の風習との違いから「加賀者」と呼ばれ苦勞しましたが、講の結束と勤勉さで北陸真宗の信仰生活を守りました。現在も家屋を屋敷林で囲んだ散居村や蓮如柿、門徒報恩講など北陸の文化を残しています。

真宗移民以前、戦国時代には岩手県沿岸部に本願寺の教線が展開していました。戦争という災害に追われた真宗僧や門徒が移住したものと考えられます。東日本大震災の大津波でほとんど犠牲者を出さず「奇跡の浜」として世界に知られた大船渡市吉浜にある真稱寺は、加賀門徒が四〇〇年以上前に開いたお寺です。

北陸真宗と東北真宗との関係は古くから知られていましたが、遠い昔の記憶になつていました。それが七年

前の大震災がきっかけで思い起こされたのです。震災復興の手がかりは、真宗移民の記憶のなかにあるのではないのでしょうか。災害の国である日本は、被災と復興を繰り返してきました。私は各地の浄土真宗が伝えていく災害復興の記憶をたずねていきたいと思っています。

自己紹介
みたらい たかあき
大分県出身。真宗大谷派教学
研究所研究員・宗教者災害支
援連絡会世話人



真宗人物伝

第四十五回

徳法寺 杉谷 浄

慈善

今回は親鸞聖人の弟子で、関東二十四輩の第二十番である慈善です。

茨城県常陸大宮市にある、慈善を開基とする玉川山宝寿院常弘寺によると、慈善の俗名は壺井大学頭橘重義(つばいだいがくのかみ)たちばなしげよし)といい、後鳥羽上皇の家臣であったようです。

後鳥羽上皇といえば、法然上人や親鸞聖人を流罪にした方です。流罪となった理由については諸説ありますが、親鸞聖人が「無実風聞によりて罪科に処せらるる」とおっしゃっていますから、後鳥羽上皇が噂話を真に受けたために、無実の罪を着せられたのでしょうか。

その家臣であったとされる壺井重義の身分は、朝廷

の官僚育成機関であった大學寮の長官である「大学頭」となっています。これは従五位上相当の役職で、天皇

の住まいである清涼殿の殿上の間に昇ることを許される殿上人(てんじょうぶひと)の最下位になります。ちなみに親鸞聖人の父である日

野有範は、従六位上相当の皇太后宮大進であったとき

れますから殿上人ではありませんでした。当時は親の官位が子供にも使われますから、親鸞聖人より身分が高かったということになります。三位以上の身分である公卿のような貴族ではな

いものの、上級役人であった壺井重義ですが、冤罪によって京を追放されます。

その後、常陸国に流れ着き、聖徳太子を祀る太子堂を住まいとしたといいますが、この時すでに僧侶であったのかもしれない。

この太子堂は、奈良の橘寺に安置されていた、聖徳太子が自ら刻んだ太子像を、この地域の豪族であった佐竹氏がこの地に遷したものと伝えられています。以前にも触れましたが、親鸞聖人は聖徳太子を日本のお釈迦さまとして尊敬なさっていました。橘寺は、聖徳太子が生まれた場所に建てられたとも言われる寺で、聖徳太子の父である用明天皇の別宮を、聖徳太子自らが寺に改めたとされる、聖徳太子建立七大寺の一つです。当初は、中門、塔、金堂、講堂からなる寺でしたが、何度も火災に会い、現在は太子堂と観音堂だけが再建されています。親鸞聖人も京におられた時には聖徳太子の旧跡を回っていらつ

しゃったと思われまますから、常陸に来られた時にこの太子堂に立ち寄られたのでしよう。そこで、堂守をしていた壺井重義と出会い、同じような境遇の者同士意気投合したのかもしれない。

現在、常弘寺に安置されている聖徳太子像は、残念ながら時代の新しいものです。ただし、寺の場所はかつて太子堂が建っていた場所と同じとされています。今のような裁判制度のなかった時代ですから、多くの人が無実の罪で刑を受けていたことでしょう。しかしそのようなご縁で、このお二人が出会うことにもなったのです。

子堂に立ち寄られたのでしよう。そこで、堂守をしていた壺井重義と出会い、同じような境遇の者同士意気投合したのかもしれない。



徳法寺の

ホームページの

ご案内

「僧伽」のバックナンバーや報恩講、春秋彼岸の案内、お講の案内、学習会のレジュメ、交流広場などを載せています。アドレスは <http://tokuhou-ji.com/> です。是非覗いてみてください。

杉谷浄の

ラジオ案内

七月三日(火)

八月七日(火)

九月四日(火)

F・M・N・I(七十六・

三MHz)で午後一時半

から一時間放送します。

番組名は「生活一番シャ

トル便 住職のよもや

ま話」です。再放送は放

送日の午後十一時と土

曜日の朝七時からの二

回です。インターネット

でも聞けます。

和讃に学ぶ

第五十五回

徳法寺 杉谷 浄

仏と衆生(一)

仏とは「ブツダ」(仏陀)のことで、日本語にすると「真実に目覚めた者」や「悟りを開いた者」という意味です。

仏教は「仏による教え」という意味と「仏になるための教え」という両方の意味があります。初期仏教は「仏による仏になるための教え」であつたのですが、時代と共に私たちが簡単にお釈迦さまのようになれるはずがない、ということになり、生きていく間には仏になることが出来ないというようになってしまいました。

仏になるための教えであるのに仏になることが出来ないというこの矛盾に、多くの僧侶たちが取り組むこととなります。その解決策の一つが天台宗を中心に説

にこの和讃を次のように書き換えています。

罪業もとよりかたちなし
妄想顛倒のなせるなり
心性もとよりきよけれど
この世はまことの
ひとぞなき

この意味は「すべての衆生が行う罪業は生まれる以前から決まっているものであり、誤った理解や考え方が罪を起こさせるのです。本来持ち合わせている性は皆清らかなのです。汚されてしまっているから、すべての衆生が煩惱にこの世の中に仏と呼べるような人は一人もいないのです」となります。途中まではそれほど変わりませんが、最後の一文で内容が逆になっています。

この変化は、親鸞聖人にとつて「仏となる」という内容が変わってきたことを表しています。親鸞聖人は天台宗の比叡山延暦寺で仏教を学びました。最初の和讃

は、延暦寺で学んだ本覚思想によつて、たとえこの世で仏になることができなくても、本来仏なのであるから既に救われている、という内容です。しかし、今現に苦しんでいる人に「あなたは本来仏であるのですから安心してください」といっても苦しみから目を背けることにはなりません。

「仏になる」ことがなくても救われる道として「往生する」ということを見出したのが浄土教なのです。では私と仏が全く無縁であるのかというと、修行などしなくても仏心が届けられているのです。これを阿彌陀仏の廻向というのですが、このお話は次回に回します。



本の紹介

『生きがいに』

ついて

神谷恵美子
みすず書房

とてつもない不幸に見舞われた人々を目の前にした時、人はそれをどう受け止めようとするだろうか。例えば震災地域の人々の様子をメディアを通して知った時、すぐさま駆けつけて困っている人の力になりたいと思うだろうか。また、被災地域が自分の住んでいるところではなくてよかつたと、胸をなでおろすだろうか。

また、なぐさめや励ましの言葉が、必ずしも相手の心に届くとは限らない。良かれと思つて行つた行為も、自分は被害に遭つていないという優越感や傲慢さに汚染されていることもある。被害に遭われた方々は、第三者の気持ちに敏感だ。私たちは、所詮他人の苦しみ

なんてその人でなければ分からないと、いったん差し伸べた手を引つ込めることになるのかもしれない。

被災地救援のボランティアなど他人のために行う行為は、一般に利他的行為と言われる。しかしこれはなかなか困難な問題をはらんでいる。そこには、人はそれぞれが自分独自の人生を歩んでいて、誰も他人になりかわることはできないという、厳然たる事実が横たわっているからである。

一方不幸に見舞われた人々は、自分が、(もしくは自分たちが)社会の中で孤立した存在として生きなければならぬという現実を突きつけられる。

その典型が、らい病患者である。彼らは病気による肉体的苦痛に加えて、社会から隔離されるという精神的苦痛をも味わわなければならない。

神谷恵美子は、瀬戸内海の孤島にある愛生園というらい病患者の隔離施設に飛

び込んで、臨床研究をした精神科医である。そこで氏は、安易な同情など受け付けない、人間の究極の姿に直面せざるを得なかった。

それはまた、人間はなぜ生きるのか、人間にとつて真の生きがいは何かを考えざるを得ないところに自ら身を置くことでもあった。

この書は、そんな環境の中での思索を一冊にまとめたものである。論文というよりも、氏の思索の痕跡を綴つたような印象を受ける。ここには「優しさ」などでは語りつくせない、人間に對する深い洞察がある。

その基本姿勢は、氏の次のような言葉に垣間見られる。私たちがらいを病んでい

たとしても、べつにふしぎはない。彼らが私たちに代わつて病んでいるのだ、といつてもいいすぎではないのである。

ひいては人類固有の苦しみとして問題化されているからである。氏はこの姿勢をとることで、またそのことによつてのみ、彼らと繋がることのできたのである。

氏は、生きがいというものを、人間が生きていくうえで不可欠なものととらえている。そして生きがいを喪失した事態を、限界状態(人間の危機的状态)と呼ぶ。

そして、人はいかにして絶望の中から生きがいを見出しうるのかということ、目の前のらい病患者だけでなく、著名な文学者や詩人の手記から紐解いていく。

それはおそらく彼女自身の生き方を問うことでもあったのだろう。自身の人間の苦悩を前に発せられる言葉は、いずれも私たちの心に重く突き刺さる。

この書籍は、今年五月、NHKの「100分de名著」という番組で紹介された。お勧めの一冊である。

(彰)



『サンガ茶話会』

毎月第一木曜日

午後三時～五時

東別院真宗会館内

囲炉裏の間

お茶とお菓子をいただきながら、お坊さんと気楽にお話できる空間です。相談というほどではないにしろ、ちょっと聞いてみたい、いろんな人と話してみたいという方大歓迎です。もちろん無料です。お気軽にご参加ください。

映画の紹介

「フアンニー」

限りなく善良な人々の
繰り広げる愛の物語

フランスの港町マルセイユを舞台にした美しい映画である。物語は中盤からテンポよく展開し、筋立てがよく練られていて面白い。ストーリーをばらしてしまうと興味が半減してしまうので、ここでは観てのお楽しみということにしておきたい。自由を求める若者を主人公にし、そこに男女の愛、親子の愛、地域社会の問題、経済格差など様々な要素が、絡み合ってくる。盛りだくさんのテーマの中で、愛憎まみえる人間模様が、驚くほど明るく



ユーモラスに描かれている。

観客は、おそらくどの登場人物にも共感できるだろう。この映画の中には、誰一人悪役はいない。全員がいい人なのである。これはある意味で斬新と言える。同じストーリーで暗いドロドロした陰惨な映画を撮ることも可能だろう。

この手法、どこかで見たことがある気がした。そして、しばらく考えて思い当たった。山田洋二監督である。「寅さん」のシリーズでは、登場人物全員が、善人である。にもかかわらず複雑な人情の機微を描き切っていた。

見終わった後、すべての人間を愛せるような、そんな気持ちにさせてくれる映画である。人間に対する限りなく温かい眼差しは、意外なほどに説得力を持つものだと思った。

青い目の少女レスリー・キャノンの美貌と、名優シャルル・ボワイエの渋い演技が光る。一九六一年アメリカ映画。(彰)

各寺のご案内

◆常徳寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

☎二四一―二六四九

◎秋彼岸

九月二十三日(日・祝)

午後二時より

◎報恩講

十月十日(水)

お速夜 午前十時

お日中 午後一時半

法話 佐々木五六師

◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二―四

☎二四一―五二一九

◎徳法寺仏教入門講座

インド仏教史

毎月二十一日

午後七時半より

講師 杉谷 浄

七月 釈迦伝説一

八月 釈迦の誕生から出家

九月 求道から悟りまで

十月 釈迦と弟子たち

十一月 釈迦と信徒たち

◎秋彼岸

鍵井靖章水中写真展

九月二十日(木)

二十六日(水)

◎秋彼岸中日及び

永代経法要

九月二十三日(日・祝)

午後一時より

講師 藤原 正洋師

午後三時より

トークイベント

鍵井 靖章氏

西山 彰(常徳寺)

杉谷 浄(徳法寺)

徳法寺のフェイスブックとツイッターを始めました。是非ご覧になってください。フェイスブックは杉谷 浄、ツイッターは tokuhouji です。

『心の相談室』

毎月第四土曜日

午後三時〜五時

東別院横

「いちよう館」二階

相談無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きます。

編集委員

西山 彰(常徳寺)
杉谷 浄(徳法寺)